

スタボン 初期凍害対策

冬季には初期凍害を受けないように適切な養生を行って下さい。

スタボンは内部に空気層を含んでいるので圧縮強度が35kg/cm²以上に達すると、ある程度の凍結融解に耐えられるようになります。

このため、初期養生はこの強度が得られるまで継続する必要があります。

[自然土舗装材 スタボンのWebページ](#)

下地の温度管理

■ 凍結下地への施工は不可

スタボンの急激な温度低下の要因になります。

凍結融解時に路盤沈下の恐れがあります。

■ 対策

下地の加熱・加温(シート、投光器、ヒーター等)

下地が凍結している場合は適当な方法で溶かした後に施工する。

養生

1. 一般的な養生方法は次の2種類です。

保温養生

断熱性の高い材料(断熱マット、シート等)でスタボンの周囲を覆い、固化材の反応を利用して保温するものです。

給熱養生

気温が低い場合、保温のみで凍結温度以上の適温に保つことができないとき、給熱により(ヒーター、投光器等)養生するもので養生上屋を設けて内部空間を加熱する方法が一般的です。
またシート等による保温養生と組み合わせて行うとより効果的です。

2. 施工後の初期に凍結しないように十分に保護し、特に風が当たらないようにして下さい。

施工部の[かど][へり]の部分は初期凍害をうけやすいので、養生に特に注意して下さい。

風は施工表面からの水の蒸発を促進し気化熱を奪い、急激な温度低下を引き起こすので寒風が当たらないようことが望ましく、またマット、シート等で養生して下さい。

3. 施工後一日はスタボンの温度を5℃以上に保ち、さらに5日間は2℃以上に保って下さい。

初期凍害防止の為には最低養生温度を5℃としましたが、寒さが厳しい場合には10℃程度とする。
養生後の急冷を避けるため表面温度が20℃を超えないような養生が望ましいでしょう。

4. 給熱する場合はスタボンが急激に乾燥したり、局部的に熱せられたりしないようにして下さい。

給熱を行う場合は乾燥に十分注意し、必要に応じての給水が必要です。

また局部的に熱し、スタボン各部の温度差が著しくなるとひび割れが生じる恐れが大きくなるので注意が必要です。

5. スタボンは予想される荷重に対して十分な強度が得られるまで養生して下さい。

気温が低い場合は強度の増進が緩慢となるのでそのことを考慮し、予想される荷重に対して必要な強度が得られるまで養生を行う必要があります。

6. 保温養生または給熱養生を終わった後はスタボンの温度を急激に低下させないで下さい。

温度の高いスタボンを急に寒気にさらすとひび割れが生じる恐れがあるので、表面が徐々に冷えるようにしなければなりません。

なお、養生終了後に凍結が予想されるときは、養生の打ち切り直前には散水しないで下さい。

スタボン 凍上対策1

冬季に著しく気温が低下する地域では凍上現象(霜柱)が発生します。従って、このような地域では凍上対策が必要になります。

凍上は施工下地から起こる場合とスタボン層自体に発生する場合があります、この2点に対策を施す必要があります。

下地の温度管理

□ 置換工法

凍上性の下地土を必要な範囲、碎石、砂等の凍上を起こしにくい材料で置き換え、凍上を防ぐ工法で凍上対策として現在主として用いられています。

1.土質

粒径が0.1mm以下のシルト・粘土質(0.005~0.002mmが最も凍上性が強い)が含まれる土壌は凍上現象をおこしやすいので粒径が0.1mm以上の砂・碎石等に置き換え、凍上抑制層を作ります。

— 置換工法による凍上防止 —



2.置き換え深さ

土壌は地表面から下層へ向かって徐々に凍結していくので、その最大凍結深さの70%以上を置き換えると凍上被害を防ぐことができます。また凍結深さは次の式で求めることができます。

$$Z=C\sqrt{F}$$

Z:凍結の深さ(cm)

C=定数(3~4)

F:凍結指数(0°C以下の日平均温度×継続日数)(°C/day)

スタボン寒冷地使用について

スタボンの寒冷地使用について凍害による凍結の恐れがありましたが、過去、平成15年6月に北海道赤平市内の一般住宅SAコートを使用し施工しました。
平成18年現在で過去3年凍結・雑草問題はクリアされて居ります。

SAコート

使用効果

1. 寒冷地での凍結を防止し劣化を抑制します。
2. コケ、カビ等の繁殖を抑制し景観を長期間保持します。
3. 表面のほぐれを抑制し耐久性が向上します。
4. 水性エマルジョンなので扱いやすく安全で、乾燥後溶出しません。

施工要領

1. 製品の施工要領に従い標準通りに施工します。
※SAコートを散布する事により透水性が減少しますので不陸の調整と勾配を施して下さい。
2. 施工完了後、約8時間養生し乾燥させて下さい。
3. SAコートを希釈し均一に散布する。
4. 夏季は約3時間、冬季は約6時間以上養生します。
※散布直後に降雨が予想される場合は散布を見合わせて下さい。

使用方法

1. SAコート(原液)を水で5倍～10倍に希釈して使用する。
※SAコート 1:4～9(希釈水は必ず上水道を使用)
2. 1㎡あたり希釈液2リットルを目安にジョーロ等で均一にムラなく散布。
3. 散布は施工後1週間以内に行って下さい。
4. 使用した道具類は乾燥しない内に水洗いをして下さい。
※寒冷地(氷点下になる地域)は5倍希釈液で行って下さい。

SAコート散布歩掛表(100㎡当り) * 散布面積100㎡以上に摘要

項目	数量
SAコート(希釈品)	200リットル
散布手間	0.25人
諸経費	0.05

[ご不明な点等ございましたら、お気軽に弊社営業スタッフまでお問合せ頂ければ幸いです。](#)



〒590-0021
大阪府堺市堺区北三国ヶ丘町8丁目7番7号
Tel 072-232-6060 FAX 072-232-6008
email info@norimen.com
<http://www.norimen.com/>